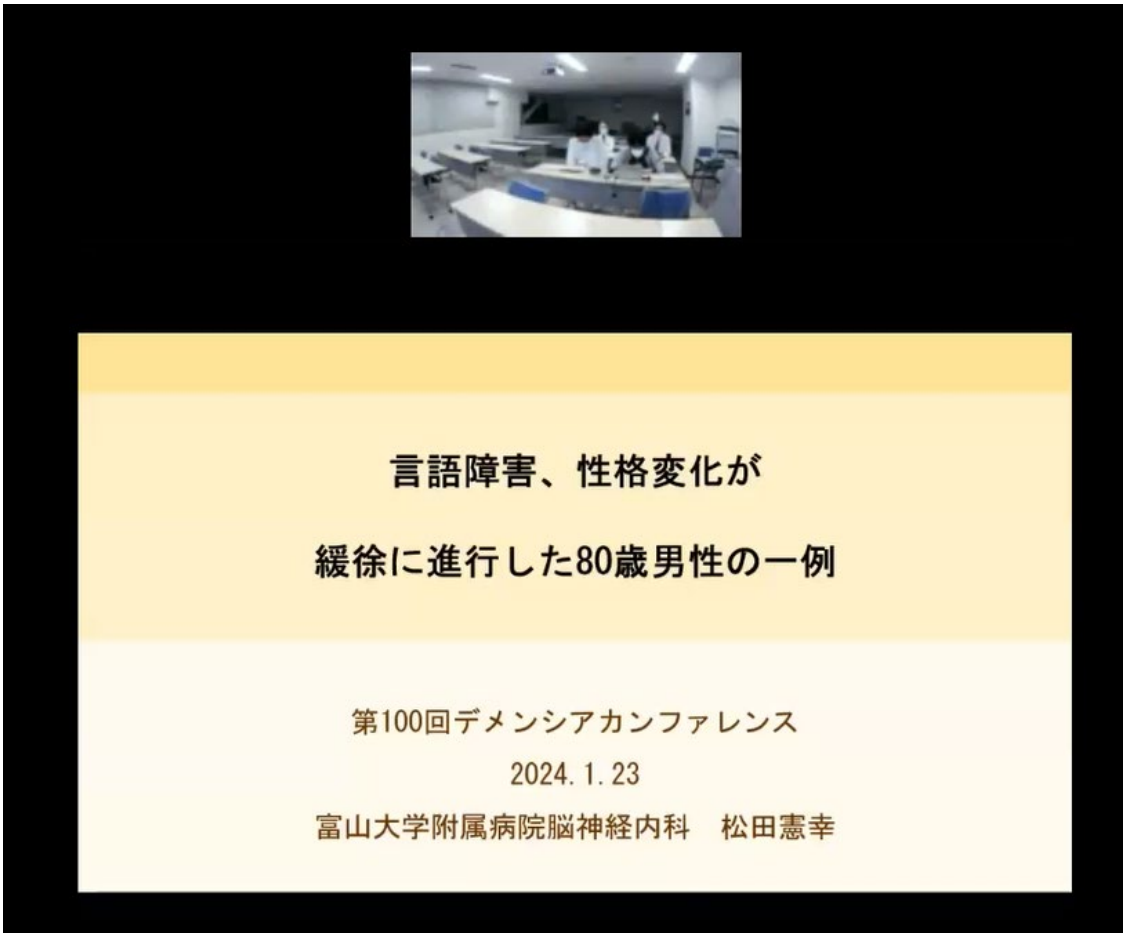
第100回デメンシアカンファレンスを開催

2024年1月23日

１月２３日（火）に富山大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第１００回デメンシアカンファレンス」をWeb上で開催しました。

「言語障害、性格変化が緩徐に進行した80歳男性の一例」のタイトルで、富山大学からの症例報告で進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。

症例発表の様子とスライド



第 100 回デメンシアカンファレンス　報告要旨

『言語障害、性格変化が緩徐に進行した 80 歳男性の一例』

発表者：松田憲幸（富山大学附属病院　脳神経内科）
司　会：林智宏（富山大学附属病院　脳神経内科）

【要　旨】
約 1 年半の経過で緩徐に進行した言語障害と認知機能障害があり、発語失行や失文法が主症状である非流暢/失文法型原発性進行性失語症と診断した。神経画像や髄液バイオマーカーの結果から、その背景疾患は前頭側頭葉変性症と考えられた。

【質問・意見】
質問：
① 本例に家族歴はみられたか？
② 大脳皮質基底核変性症を考えるような所見はあったか？
③ 本例に対する治療方針や社会サポートなどはどうしたか？
④ アミロイド PET など富山大学における認知症診療の状況はどうか？
回答：
① 失語症や認知症の家族歴なし、近親婚なし
② 大脳皮質基底核変性症を示唆するような失行、失認、筋強剛などはなかった
③ 言語療法の継続目的にリハビリテーション病院に紹介した。介護保険申請も含めて社会的サポートを進めていく
④ アミロイド PET は今年春を目途に順次開始していく。レカネマブの導入にむけて外来診療を中心に準備を進めている。
コメント：

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン

第100回デメンシアカンファレンス

『言語障害、性格変化が緩徐に進行した80歳男性の一例』

2024年1月23日（火）18:30～

発表者：富山大学附属病院　脳神経内科　松田　憲幸
担　当：富山大学
対　象：認プロ参加施設及びその他の施設の医療関係者
（医療系大学の学生含む）

【参加方法】
個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。
案内状のメールに従って会議にご参加ください。

・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。

・上記以外で参加を希望される方は１月２２日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
（ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合せ先】
北陸認プロ運営事務局　〒920-8640　金沢市宝町13番1号
TEL:076-265-2149　FAX：076-234-4208
E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp　URL:http://ninpro.jp/